

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざし、各教育部門における系統性のある教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。	①主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、専門性の向上に努め、ニーズに応じた授業改善を行う。 ②スポーツや芸術活動を通じた子供たち自らの発信を促し、自己実現につなげる。また、ICT教材の積極的な活用等により、興味関心の幅を広げ学びに向かう気持ちを高める。	①「個別教育計画」を活かしたチームによる授業実践に取り組むと共に、指導内容の見直しと精選を図る。 ②児童・生徒の主体的、自主的な学びに繋がる支援教育の推進及び教材・教具、指導案の情報共有と活用を進めるサーバーの活用と図書コーナーの充実、推進を図る。	①個々の児童・生徒のニーズと課題を共有し、チームによる授業実践ができたか。 ②様々な学習活動の中で自己選択、自己決定を経験させる指導や仕組みができたか。教材・教具、指導案の情報共有及びサーバーの活用と図書コーナーの整備ができたか。
2	児童・生徒 指導・支援	児童・生徒一人ひとりの実態やニーズに応じた指導・支援を充実させる。	①専門職等の積極的な活用を行い、一人ひとりのニーズに応じた指導及びいじめ防止対策の充実を図る。 ②学習指導要領の改訂を視野に入れ、個別教育計画の充実を目指し実践に生かす。	①チームとして指導・支援にあたるため、アセスメントやアンケートの活用及びケース会をはじめ、日常的に専門職・教育相談担当との連携を深める。 ②個別教育計画の新書式上の課題整理と修正を重ね、適切な引継ぎに基づく指導・支援に繋げる。	①「個別教育計画」を専門職・教育相談担当等と交えて策定、評価し、個に応じた指導、支援の実践を行うことができたか。 ②より有効な引継ぎを行うため、個別教育計画の様式や運用の見直し、改善ができたか。
3	進路指導・ 支援	将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、卒業後の進路を視野に入れ、障害の特性や発達段階に応じた進路指導・支援を行う。	①卒業後の生活を見据え、小中高の一貫したキャリア教育を発達段階に応じて行う。 ②福祉制度や地域の情報を発信し、保護者等のニーズに応える。	①卒業後の生活を見据え、生徒の実態や発達段階に応じた生活スキルや社会的スキルの獲得を目指した指導、支援を行う。 ②保護者のニーズに応じた進路説明会の設定や情報発信の方法を工夫する。	①社会接続に繋がる自己肯定感の醸成や自己選択、自己決定能力の育成を意識した教育活動や支援方法を工夫できたか。 ②計画的に保護者のニーズに応じた進路説明会の設定や情報発信ができたか。
4	地域等との 協働	他者を尊重し、多様性を認め合う共生社会の実現に向け、障害のある児童・生徒の理解啓発を図るため、地域への発信や、地域と連携した教育活動を充実させる。	①共生社会の実現に向け、センター的機能を発揮し、地域の小中高への支援を行う。 ②地域に向けた研修の開催や、地域と連携した教育活動に取り組む。	①共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育推進のため他機関とのきめ細かな連携を行うと共に支援や研修、協働の取組みを工夫する。 ②地域に開かれた研修会を開催すると共に学校HP等を活用して最新のわかりやすい情報発信に努める。	①インクルーシブ教育実践推進校・クリエイティブスクールとの連携・支援が計画的に進められたか。 ②地域に開かれた研修会の実施により地域の課題解決に役割が果たせたか。最新の情報発信がスムーズにできたか。
5	学校管理 学校運営	児童・生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。不祥事防止に努め、良質の同僚性を構築し、教職員の人格的資質・専門性の向上を図る。	①児童・生徒の安全と健康を守るための環境づくりに計画的組織的に取り組む。 ②働き方改革を推進し、風通しのよい職場環境づくりを目指す。	①感染症やアレルギー等への対応マニュアルの策定、関係部署との連携や外部機関との専門的な情報共有を進めることにより事故の未然防止に繋がる「予防的な取組み」を推進する。施設、設備の定期的な点検と迅速な補修、改善を図る。 ②良好な教職員のコミュニケーション関係の構築と職場環境づくりを進め、定期的な不祥事防止研修を行うなど組織的な取り組みを行う。	①保健室・看護師及び主治医、担当医と連絡を密に取り合い、適切に医療ケア等の対応や各種対応マニュアルの確認ができたか。 施設、設備の定期的な点検ができたか。 ②不祥事未然防止に対する教職員の意識向上と効果的な不祥事防止研修を行うなど、事故・不祥事ゼロを達成することができたか。